



POWERED SPEAKERS **DSR** series

POWERED SPEAKER
DSR112 DSR115 DSR215

POWERED SUBWOOFER
DSR118W

OWNER'S MANUAL

BEDIENUNGSANLEITUNG

MODE D'EMPLOI

MANUAL DE INSTRUCCIONES

MANUALE DI ISTRUZIONI

РУКОВОДСТВО ПОЛЬЗОВАТЕЛЯ

使用说明书

取扱説明書

EN
DE
FR
ES
IT
RU
ZH
JA

English

Deutsch

Français

Español

Italiano

Русский

中文

日本語

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源は本体に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードを他の製品に使用しない。故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグは保護接地されている適切なコンセントに接続する。確実に接地しないと、感電の原因になります。



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

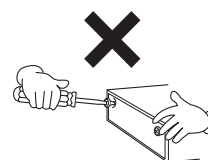
分解禁止



禁止

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



水に注意



この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

異常に気づいたら



電源コードやプラグがいたんだ場合、または使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



設置



DSR118Wのボールソケットに取り付けるスピーカーは必ず DSR112 または DSR115 とする。その場合、外径が35mmで、長さが90cmより短いスピーカーボールを使用する。

この機器が転倒して破損したり、内部の部品を傷つけたり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。また、DSR112、DSR115 以外のスピーカーを取り付けると、スピーカーが転倒して破損する原因になります。



取り付け工事は、必ずお買い上げの販売店に依頼する。また、取り付ける場合は、以下の点に注意する。

- ・この機器の重量に十分に耐えられる取り付け器具と場所を選ぶ
- ・ウォールブラケットは使用しない
- ・継続して振動があるような場所は避ける
- ・定期的に保守点検を行なう



この機器を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。この機器を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この機器が落下して破損したり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。



この機器の底面を持って運搬しない。この機器の底面に手をはさんで、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。



この機器を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。コードをいためたり、お客様や他の方々けがをしたりするおそれがあります。



この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



風通しの悪い狭いところに押し込めたりしない。この機器を壁や他の機器から左右に30cm、後ろに30cm、上に30cm以上離してください。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



この機器のリアパネルを壁に押しつけない。この機器を壁に押しつけたときに、プラグが壁に接触し、電源コードが外れてショートしたりして故障や火災の原因になることがあります。



スピーカーを横向きでつり下げない。この機器が落下して破損したり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。



スピーカーをつり下げるためにスピーカーのハンドルを使用しない。この機器が落下して破損したり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなると、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところに置かない。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



不安定な場所に置かない。この機器が転倒して故障したり、お客様や他の方々けがをしたりする原因になります。



塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。

接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量（ボリューム）を最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になることがあります。

使用時の注意



必ず実行

スピーカーユニットの故障を防ぐために、電源を入れるときは、最後にこの機器の電源を入れる。また、電源を切るときは、最初にこの機器の電源を切る。



必ず実行

機器の周囲温度が極端に変化する（機器の移動時や急激な冷暖房下など）と、結露することがあります。そのまま使用すると故障の原因になることがありますので、電源を入らずに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。



禁止

この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

大きな音量で長時間スピーカーを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



禁止

音がひずんだ状態ではこの機器を使用しない。
機器が発熱し、火災の原因になることがあります。



禁止

この機器の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。この機器が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

マイクなどのケーブルを引っ張らない。
接続されたケーブルを引っ張ると、スピーカーが転倒して破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

XLR タイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです。
(IEC60268 規格に基づいています)
1: グラウンド(GND)、2: ホット(+), 3: コールド(-)

携帯電話からの影響について

この機器のすぐ近くで携帯電話を使用すると、この機器にノイズが入ることがあります。そのようなときは、少し離れた場所で携帯電話をご使用ください。

● 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

スイッチ、ボリュームコントロール、接続端子などの消耗部品は、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要になります。消耗部品の交換は、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

この製品は、JIS C 61000-3-2 に適合しています。

* この取扱説明書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

* この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

* 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

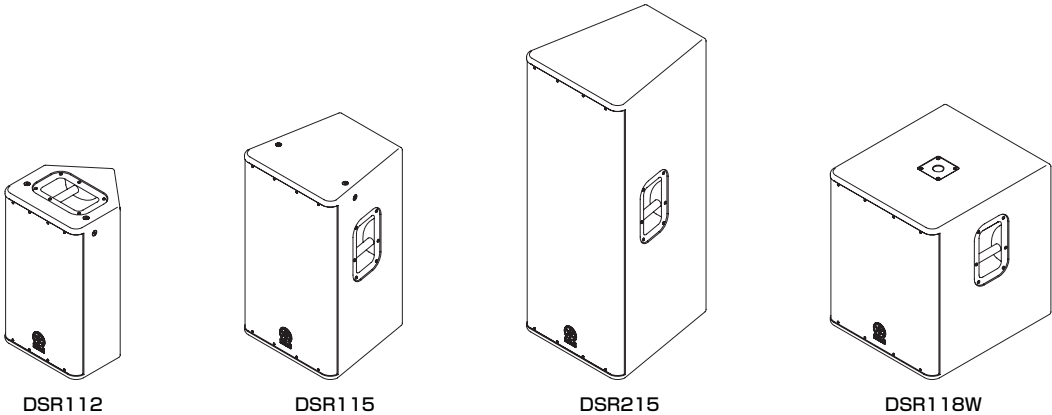
はじめに

このたびは、ヤマハ パワードスピーカー DSRシリーズをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
DSRシリーズの優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

目次

はじめに.....	63	困ったときは？.....	68
DSRシリーズの主な特長.....	63	アフターサービス.....	69
各部の名称と機能.....	64	仕様一覧 (References).....	71
セットアップ例.....	66		

DSR シリーズの主な特長



■ 内蔵 DSP によるスピーカープロセッシング (DSR112/DSR115/DSR215)

内蔵 DSP で、DSR シリーズ各モデル専用に最適化されたスピーカープロセッシングを行なうことにより、解像度の高い音を実現しました。

■ FIR-X tuning™ 搭載 (DSR112/DSR115/DSR215)

直線位相の FIR フィルターの使用により、クロスオーバーポイント付近での位相干渉のないスムーズな周波数特性と自然な音質を実現しました。

■ D-CONTOUR (Dynamic CONTOUR) 機能 (DSR112/DSR115/DSR215)

D-CONTOUR (ディーコンター) は、新開発の 3 バンドのマルチバンドコンプレッサーです。スピーカーの音量に応じて各周波数のレベルをダイナミックに調整します。小音量時には低域および高域をブーストし、大音量時にはブースト量を減らすことで、人間の聴感に合わせた迫力のある音を出力します。たとえばダンスミュージックなどリズムを強調したい場合にお使いいただくと効果的です。

■ 軽量コンパクト

Class-D アンプ、PFC 付きスイッチング電源、さらに軽量強磁力のネオジムマグネット (DSR112 と DSR115 のみ) を採用して、クラストップレベルの軽量コンパクトなボディーを実現しました。

■ 強力な保護機能

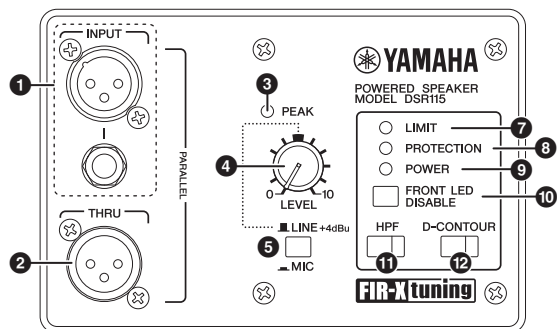
スピーカー部、アンプ部、電源部のそれぞれに先進的な保護回路を搭載していますので、安心してお使いいただけます。

付属品

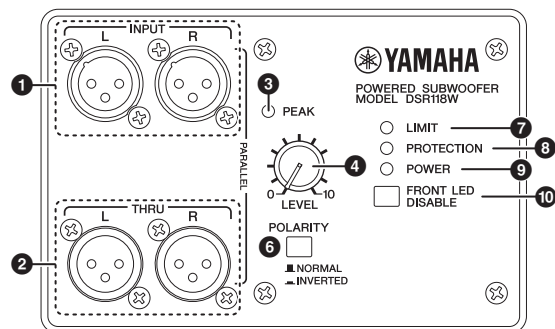
- 電源コード
- 取扱説明書 (本書)
保証書は 70 ページに記載されています。

各部の名称と機能

リアパネル



DSR112, DSR115, DSR215



DSR118W

① INPUT 端子

XLRタイプとフォーンタイプのバランス型入力端子です。DSR118WはXLRタイプの端子(L、R)のみになります。

NOTE

XLRタイプとフォーンタイプの端子を同時に使用することはできません。どちらか一方の端子だけを使ってください。

② THRU 端子

XLRタイプのバランス型出力端子です。INPUT端子とパレル接続されていますので、入力信号がそのまま出力されます。

③ PEAK インジケータ

入力レベルがクリッピングの手前3dBに達すると赤く点灯します。PEAKインジケータが頻繁に点灯する場合は、入力元の音量を調節し、信号の最大入力時にPEAKインジケータが一瞬点灯する程度にしてください。

④ LEVEL コントロール

出力レベルを調節します。出力規定レベルが+4dBuの機器(ミキサーなど)を接続する場合、DSR112、DSR115、DSR215のMIC/LINEスイッチ(⑤)をLINEに設定し、LEVELコントロールを12時の位置に合わせると十分な出力を得ることができます。

⑤ MIC/LINEスイッチ (DSR112/DSR115/DSR215)

INPUT端子の入力信号のレベルに応じて切り替えます。マイクなどのレベルが低い入力信号を接続するときはMIC(⬇)、電子楽器やオーディオ機器などのレベルが高い入力信号を接続するときはLINE(⬆)にします。

⑥ POLARITYスイッチ (DSR118W)

サブウーファの極性を切り替えます。通常はNORMAL(⬆)で使いますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によってはINVERTED(⬇)の方が低音域再生が良好になる場合があります。試聴をして好ましい低音域再生になる方を選んでください。

⑦ LIMIT インジケータ

出力リミッターが作動しているときに点灯します。以下の場合に出力リミッターが作動してアンプへの出力信号が減衰されます。

- ・アンプの最大出力電圧を超えたとき
- ・過大な積算電力を検出したとき
- ・アンプが過熱したとき

NOTE

- ・積算電力とは、単位時間あたりにスピーカーユニットへ供給された電力の総和のことです。
- ・(DSR112/DSR115/DSR215) アンプの最大出力電圧を超えた場合、または過大な積算電力を検出した場合、LIMITインジケータは減衰量が3dB以上になると点灯します。

⑧ PROTECTION インジケータ

保護回路が作動しているときに点灯します。以下の場合に保護回路が作動します。

NOTE

異常を検出して保護回路が作動した場合、アンプの熱が下がるまでしばらく待つか、電源を入れ直すと復帰します。復帰しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター(69ページ)にお問い合わせください。

- ・アンプの過熱を検出したとき
スピーカー出力がミュートされます。
- ・DC出力を検出したとき
インジケータが点灯したあと、スピーカー出力がミュートされ、電源部がシャットダウンされます。
- ・過電流を検出したとき
スピーカー出力がミュートされます。
- ・電源をオンにしたとき
起動時に約2秒間点灯します。正常に起動するとインジケータが消灯します。
- ・電源をオフにしたとき
電源スイッチをオフにした場合、または予期せぬエラーにより電源がオフになった場合、ノイズ防止のため保護回路が作動しシャットダウンされます。

⑨ POWERインジケーター

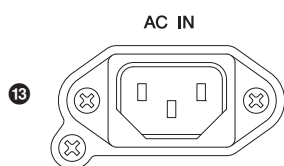
電源スイッチ(14)で電源をオンにすると点灯します。

⑩ FRONT LED DISABLE スイッチ

この機器のフロントグリル内左下にあるLEDの点灯、消灯を切り替えます。スイッチがオフ(■)のときLEDが点灯します。LEDを消灯させたい場合は、スイッチをオン(▲)にしてください。

NOTE

(DSR112/DSR115/DSR215) LEDはアンプ保護のためのリミッターが作動すると、減衰量(6dB以上)に比例して通常より明るくなります。



DSR112、DSR115、DSR215、DSR118W 共通

⑪ HPFスイッチ

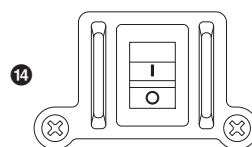
(DSR112/DSR115/DSR215)

ハイパスフィルターのオン/オフを切り替えます。スイッチを押してオン(▲)にするとスイッチが点灯します。オン(▲)にするとハイパスフィルターがかかり、120Hz以下の低音域がカットされます。マイクを直接つないで使用する場合やサブウーファーと一緒に使用する場合は、オンにすることをおすすめします。

⑫ D-CONTOURスイッチ

(DSR112/DSR115/DSR215)

D-CONTOUR (Dynamic CONTOUR) のオン/オフを切り替えます。スイッチを押してオン(▲)にするとスイッチが点灯します。たとえばダンスミュージックなどリズムを強調したい場合はオンにしてください(63ページ)。



⑬ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。まずこの機器と電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。

付属の電源コードはラッチによるロック機構(Vロック)を備えており、電源コードが意図せず外れてしまうのを防ぎます。電源コードを接続するときは、ロックされるまでしっかり奥に差し込んでください。

⑭ 電源スイッチ

この機器の電源をオン/オフします。スイッチを|側に倒すと、電源がオンになります。スイッチを○側に倒すと、電源がオフになります。



注意

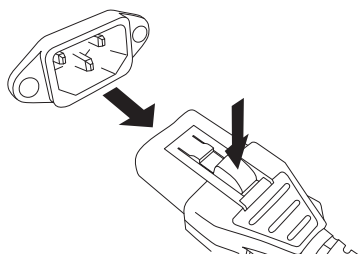
・電源スイッチのオン/オフを連続して素早く切り替えると、誤動作の原因になることがあります。電源スイッチをオフにしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。



注意

電源コードを接続したり、取り外す前に必ず電源をオフにしてください。

電源コードを取り外すときは、電源コードのラッチを押して取り外してください。



つり下げについて

DSR112とDSR115をつり下げる場合は、機器の上面部2箇所、背面下部1箇所の皿小ネジを、市販のロングアイボルト(M10、ネジ部長さ 30mm~50mm)に取り換えてください(必ず3箇所を使用してつり下げてください)。ロングアイボルトは各国の規格や安全基準にあったものをお使いください。



注意

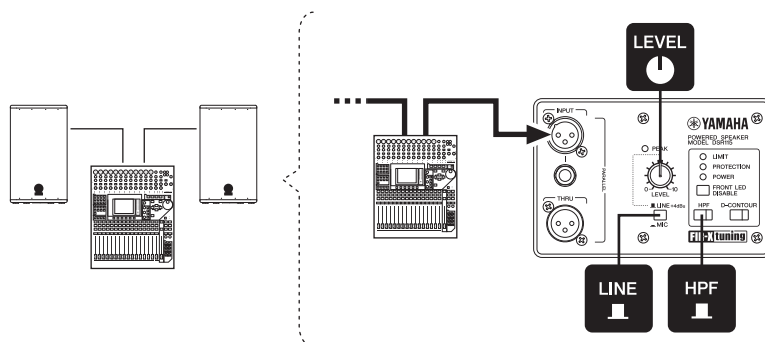
・設置および取り付け工事につきましては、専門の業者に依頼してください。
・ワイヤー、壁、天井、接続金具などは、スピーカーの重量に十分耐えられる強度のものか確認してください。
・安全にご使用いただくため、定期的に保守点検を行なってください。摩耗や腐食などにより、部品が劣化する場合があります。

取り付け箇所の強度不足や、取り付け方法の不備による落下などの事故に対しては、当社は一切の責任を負いかねます。

セットアップ例

1. ベーシックなSRシステム

2-wayスピーカー 2台のベーシックなSRシステムです。小規模ライブスペース、レストラン、練習スタジオなどに最適なシステムです。必要に応じて4.のステージモニターシステムを追加してください。

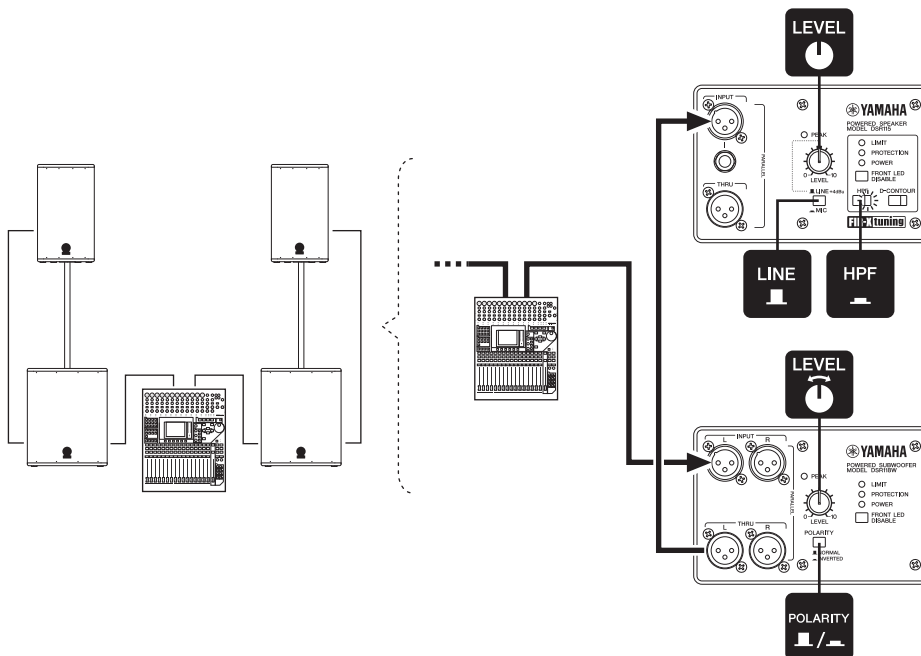


2. サブウーファーを加えたSRシステム

2-wayスピーカー 2台にスピーカーポールを使ってサブウーファーを加えたSRシステムです。小規模ライブハウス、教会、イベント会場などに最適なシステムです。サブウーファーの入力レベルはLEVELコントロールの12時の位置が推奨ですが、お好みに合わせて調節してください。また、必要に応じて4.のステージモニターシステムを追加してください。

NOTE

DSR112、DSR115 の下部と DSR118W の上部に、スピーカーポール取り付け用のポールソケットがあります。取り付けについては「安全上のご注意」(61 ページ)をご参照ください。

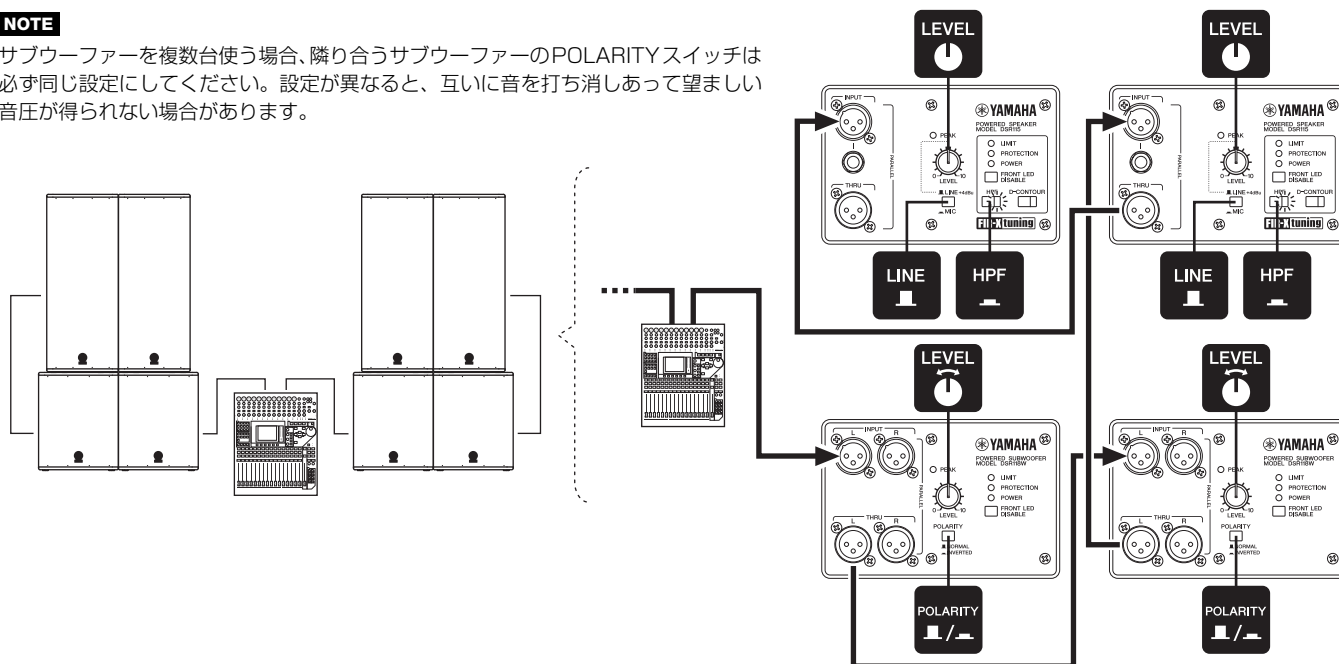


3. 中規模SRシステム

2-wayスピーカー 4台、サブウーファー 4台を使用した中規模SRシステムです。中規模ライブハウス、公会堂、市民ホールなどに最適なシステムです。必要に応じて4.のステージモニターシステムを追加してください。

NOTE

サブウーファーを複数台使う場合、隣り合うサブウーファーのPOLARITYスイッチは必ず同じ設定にしてください。設定が異なると、互いに音を打ち消しあって望ましい音圧が得られない場合があります。

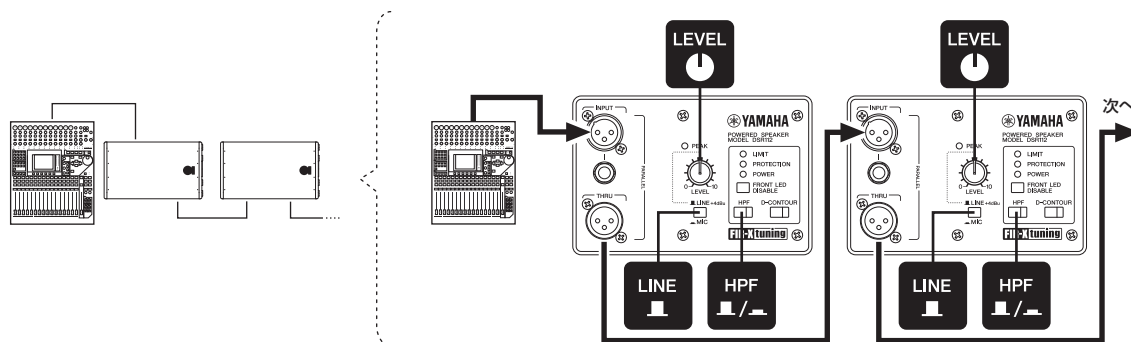


4. ステージモニターシステム

必要に応じてパラレル接続してください。

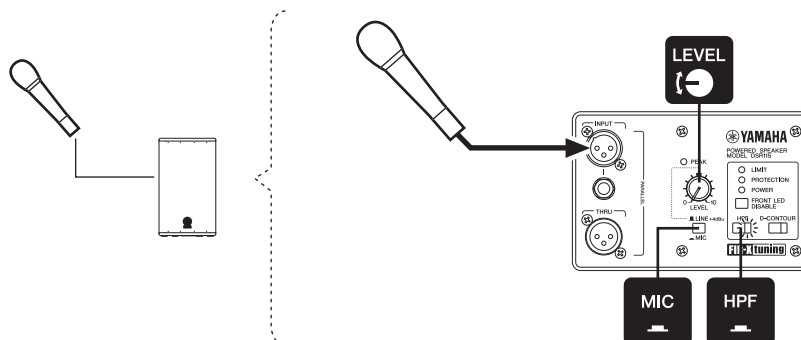
NOTE

ボーカル用のモニターではハウリング軽減のためHPFスイッチをオン(▲)にすることをおすすめします。



5. マイクのみのSRシステム(マイク直接入力)

2-wayスピーカー 1台にマイクを直接接続したSRシステムです。企業イベント、プレゼンテーション、レストランなど幅広い用途にお使いいただけます。音量はLEVELコントロールを使ってハウリングないように調節してください。



困ったときは？

症状	考えられる原因	対策方法
電源が入らない	電源コードが正しく接続されていない	電源コードを正しく接続してください。
電源コードが抜けない	電源コードのラッチを押さずに抜こうとしている	DSRシリーズでは、Vロック電源コードを採用しています。 電源コードを取り外すときは、電源コードのラッチを押して取り外してください。
突然、電源が切れた	保護回路が作動して、電源がシャットダウンした	いったん電源をオフにし、アンプの熱が下がるのを待ってから、もう一度電源をオンにしてください。
音が出ない	ケーブルが正しく接続されていない	INPUT端子に正しく接続してください。
突然、音が途切れた	保護回路が作動して、出力がミュートされている	アンプの熱が下がるまでしばらくお待ちください。自動復帰しない場合は、いったん電源をオフにし、もう一度電源をオンにしてください。
ハウリングする	マイクがスピーカーに向いている	マイクが音を拾う範囲からスピーカーを離してください。
	音を増幅しすぎている	入力機器のボリュームを下げ、マイクを音源に近づけてください。
	HPFスイッチの設定が適切でない	低音域がハウリングする場合、HPFスイッチをオン(●)に設定してください。
各スピーカーの音が違う (複数台使用時)	スピーカーの設定が異なっている	<ul style="list-style-type: none"> 各スピーカーのHPFおよびD-CONTOURスイッチの設定を同じにしてください。 各スピーカーのPOLARITYスイッチの設定を同じにしてください(DSR118Wの場合)。
音がひずむ	入力が過大である	<ul style="list-style-type: none"> PEAKインジケーターがときどき点灯するレベルまで入力機器側のボリュームを下げてください。 MIC/LINEスイッチの設定がMICで、ボリュームを下げきっても音がひずむ場合には、スイッチの設定をLINE(■)にしてください。
	出力が過大である	LIMITインジケーターがときどき点灯するようにLEVELコントロールで出力レベルを下げてください。
MIC入力時に音が小さい	MIC/LINEスイッチの設定がLINEになっている	MIC/LINEスイッチをMIC(●)に設定してください。
	ファンタム電源が必要なマイクを使用している	DSRシリーズはファンタム電源を内蔵していません。ご使用のマイクをダイナミックマイクロフォンにするか、電池を使用するか、もしくは、外付けでファンタム電源を供給してください。

* 上記の対策を行っても症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センター (69ページ) にお問い合わせください。

アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

 **0570-050-808**

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5652-3618**

受付 月曜日～金曜日 11:00～19:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX **03-5652-3634**

オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/support/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

 **0570-012-808**

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX **03-5762-2125** 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)
06-6465-0367 西日本(沖縄/九州/中国/四国/近畿/北陸)

修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6丁目2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX 06-6465-0374

●営業窓口

(株)ヤマハミュージックジャパン PA営業部
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12
KDX箱崎ビル1F

保証と修理について

保証と修理についての詳細は下記のとおりです。

●保証書

本書に保証書が掲載されています。購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理させていただきます。お客様に製品を持ち込んでいただくか、サービスマンが出張修理にお伺いするかは、製品ごとに定められています。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

ご要望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品などについては、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。

有寿命部品

フェーダー、ボリューム、スイッチ、接続端子など

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後8年です。

●修理のご依頼

本書をもう一度お読みいただき、接続や設定などをご確認のうえ、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターまでご連絡ください。修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などあわせて、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

●損害に対する責任

この製品(搭載プログラムを含む)のご使用により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、そのほかの特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、いかなる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

保証書

<div>保</div>	
※品名	
※品番	
※シリアル番号	
保証期間	本体 お買上げの日から1ヶ年間
※お買上げ日	年 月 日
お客様	<div>□□□-□□□□</div> <div>ご住所</div> <div>お名前</div> <div>様</div> <div>電話 ()</div>

ご販売店様へ ※印欄は必ずご記入してお渡してください。

本書は、本書記載内容で無償修理を行う事をお約束するものです。
お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上
お買上げの販売店に修理をご依頼ください。
ご依頼の際は、購入を証明する書類(レシート、売買契約書、納品書など)
をあわせてご提示ください。
(詳細は下項をご覧ください)

※販 売 店	店 名 所在地 電 話	<div style="text-align: right;">印</div> ()
--------------	---------------------------	---

株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部

〒103-0015
東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX箱崎ビル1F
TEL 03-5652-3850

保証規定

1. 保証期間中、正常な使用状態（取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態）で故障した場合には、無償修理を致します。
 2. 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買上げ販売店にご依頼ください。
 3. ご贈答品、ご転居後の修理についてお買上げの販売店にご依頼できない場合には、※ ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
 4. 保証期間内でも次の場合は有料となります。
 - (1) 本書のご提示がない場合。
 - (2) 本書にお買上げの年月日、お客様、お買上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - (3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (4) お買上げ後の移動、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (5) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - (6) お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。
 5. この保証書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.
 6. この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。
 - * この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、※ ヤマハ修理ご相談センターにお問合わせください。
 - * ご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの個人情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。
 - ※ その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

References

Specifications

General Section		DSR112	DSR115	DSR215	DSR118W
System Type		12" 2-way, bi-amp powered speaker, bass-reflex type	15" 2-way, bi-amp powered speaker, bass-reflex type	Dual 15" 2-way, bi-amp powered speaker, bass-reflex type	18" Powered speaker, bass-reflex type
Frequency Range (-10dB)		55Hz — 20kHz	45Hz — 20kHz	45Hz — 20kHz	40Hz — 130Hz
Frequency Response (-3dB)		60Hz — 18kHz	55Hz — 18kHz	55Hz — 18kHz	50Hz — 110Hz
Coverage Angle		H90° × V60°			-
Crossover Type		FIR-X tuning™ (linear phase FIR filter)			-
Crossover Frequency		1.7kHz	1.7kHz	1.7kHz	-
Measured Maximum SPL (peak) IEC noise @ 1m		134dB SPL	136dB SPL	138dB SPL	132dB SPL
Amplifier Section					
Amplifier Type		Class-D			
Power Rating *1	Dynamic	1500W (LF: 1020W, HF: 480W)			1020W
	Continuous	1300W (LF: 850W, HF: 450W)			800W
Cooling		Natural Convection			
Controls		LEVEL control, MIC/LINE switch, HPF switch, D-CONTOUR switch, FRONT LED DISABLE switch, POWER switch			LEVEL control, POLARITY switch, FRONT LED DISABLE switch, POWER switch
Indicators		PEAK (red), LIMIT (red), PROTECTION (red), POWER (green), Front (white), HPF (orange), D-CONTOUR (orange)			PEAK (red), LIMIT (red), PROTECTION (red), POWER (green), Front (white)
HPF Frequency		120Hz(-6dB) 24dB/oct			-
Boost Type		D-CONTOUR (Dynamic CONTOUR)			-
Protection	Load	POWER switch on/off: Mute			
		DC-fault: power supply shuts down automatically (reset manually)			
		Integral Power Protection: Limit the output (return automatically)			
		Clip limiting			
	Amplifier	Thermal: Limit the output or Mute (return automatically)			Thermal: Mute (return automatically)
		Output through current: Amplifier shuts down automatically (reset manually)			
	Power supply	Thermal: Amplifier shuts down automatically (reset manually)			
		Over voltage: Power supply shuts down automatically (reset manually)			
Connectors	Input	XLR-3-31 x1 (Balanced) TRS Phone Jack x1 (Balanced)			XLR-3-31 x2 (Balanced)
	Output	XLR-3-32 x1 (Balanced) Parallel connection with INPUT			XLR-3-32 x2 (Balanced) Parallel connection with INPUT
	Power	AC inlet x1			
Power Consumption	1/8 Power	100W		140W	100W

English

Deutsch

Français

Español

Italiano

Русский

中文

日本語

References

Transducer Section		DSR112	DSR115	DSR215	DSR118W
Low-Frequency		12" cone	15" cone	2 x 15" cone	18" cone
Magnet	Materials	Neodymium Magnet	Neodymium Magnet	Ferrite Magnet	Ferrite Magnet
Voice Coil	Diameter	3"	3"	2.5"	3"
High-Frequency		2" Titanium diaphragm compression driver			-
Magnet	Materials	Neodymium Magnet			-
Enclosure					
Material		LINE-X [®] coated wood			
Dimensions (W x H x D)		370 x 638 x 368 mm (14-9/16" x 25-1/8" x 14-1/2")	442 x 755 x 423 mm (17-3/8" x 29-3/4" x 16-5/8")	467 x 1158 x 520 mm (18-3/8" x 45-9/16" x 20-1/2")	520 x 638 x 584 mm (20-1/2" x 25-1/8" x 23")
Weight		21.2 kg (46 lbs)	28.0 kg (61 lbs)	49.8 kg (109 lbs)	42.0 kg (92 lbs)
Externals Finish, Color		LINE-X [®] , Black			
Grille		16 gauge matte black powder coated perforated steel grille			
Metal Handle		1pc (Top Board)	2pcs (Side Board)		
Pole Socket	Diameter	35mm (Bottom Board)		-	35mm (Top Board)
Flying Hardware		3 x M10 (Top L/R 1pc each, Bottom rear 1pc)		-	-

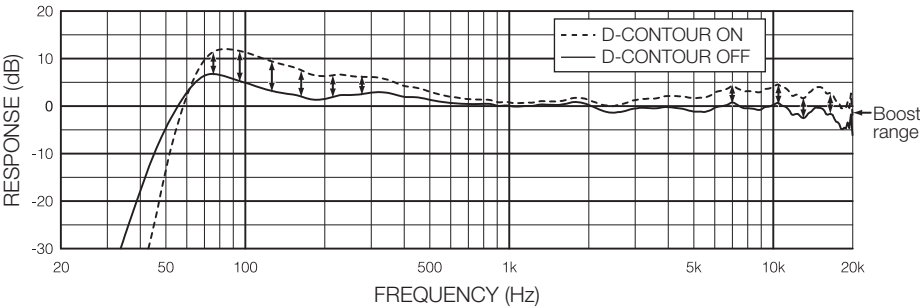
Input Characteristics

MIC/LINE switch: LINE		DSR112	DSR115	DSR215	DSR118W
Input Sensitivity	LEVEL position: maximum	0dBu			
	LEVEL position: center (12 o'clock)	+7dBu			-
Maximum Input Level		+24dBu			
Input Impedance		12kΩ			10kΩ
MIC/LINE switch: MIC					
Input Sensitivity	LEVEL position: maximum	-25dBu			-
Maximum Input Level		-11dBu			-
Input Impedance		8kΩ			-

0dBu is referenced to 0.775Vrms.

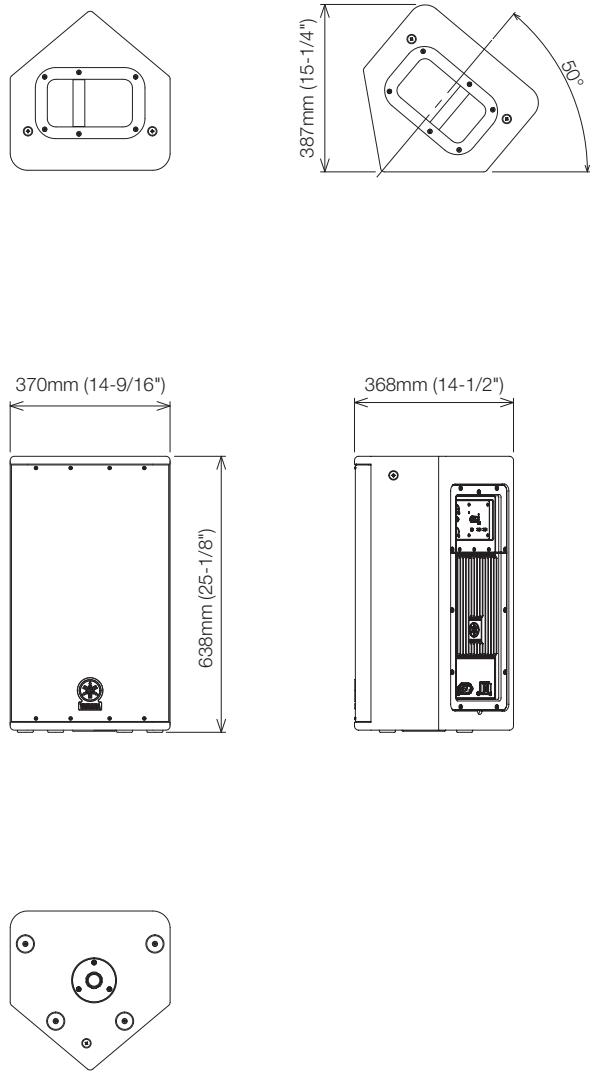
*1. THD+N=10% at minimum impedance

D-CONTOUR Frequency Response Chart

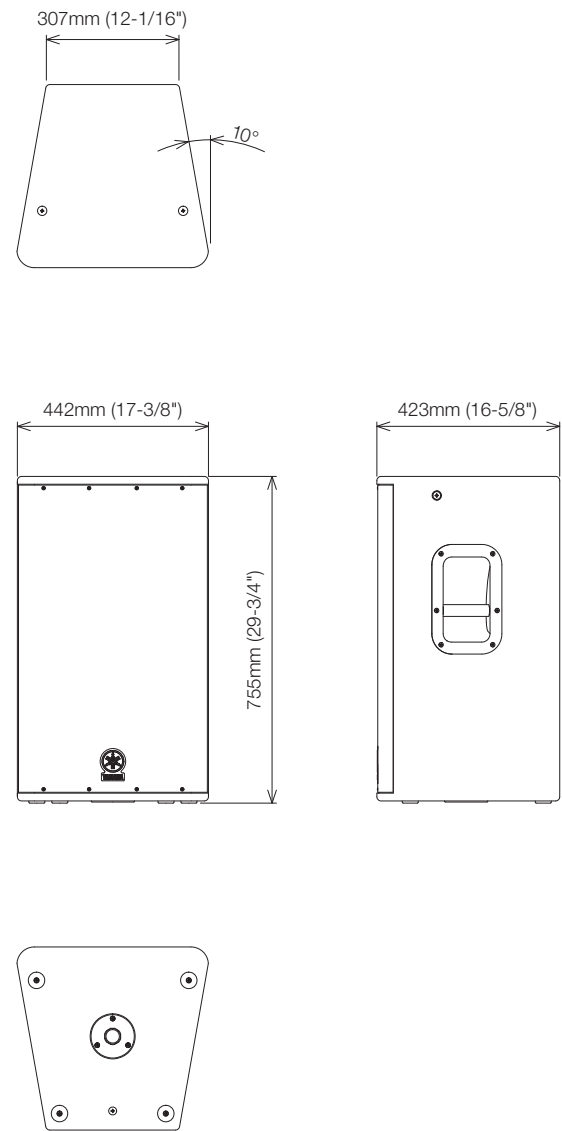


Dimensions

DSR112



DSR115



English

Deutsch

Français

Español

Italiano

Русский

中文

日本語

English

Deutsch

Français

Español

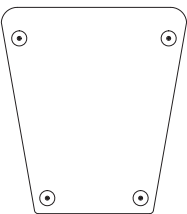
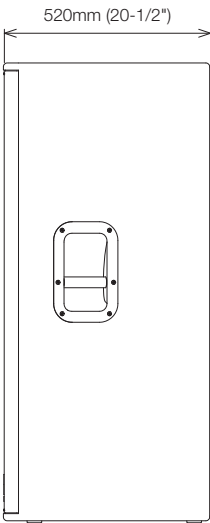
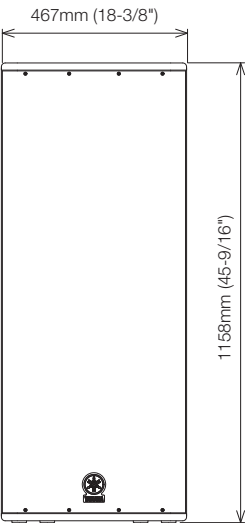
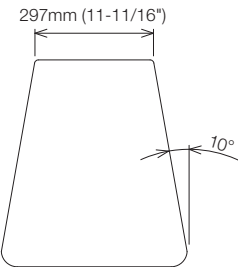
Italiano

Русский

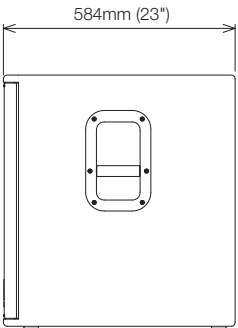
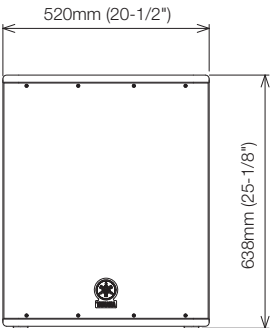
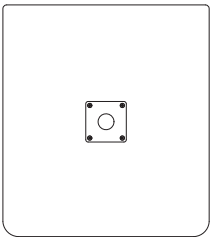
中文

日本語

DSR215

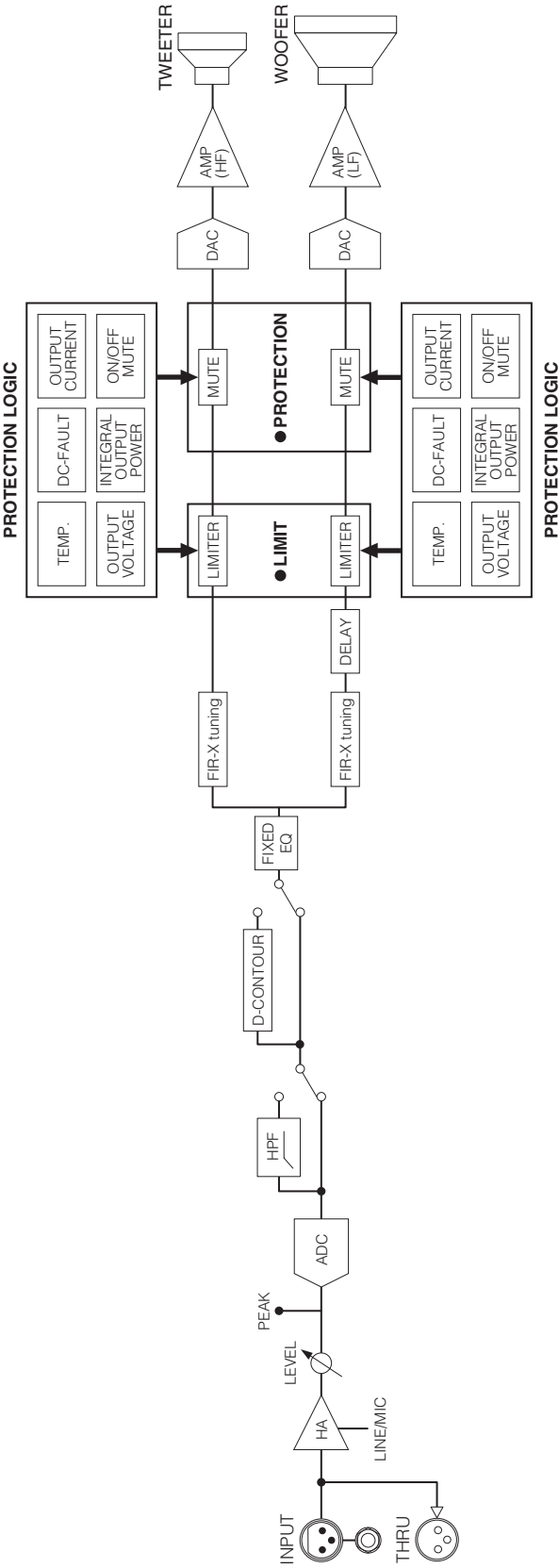


DSR118W

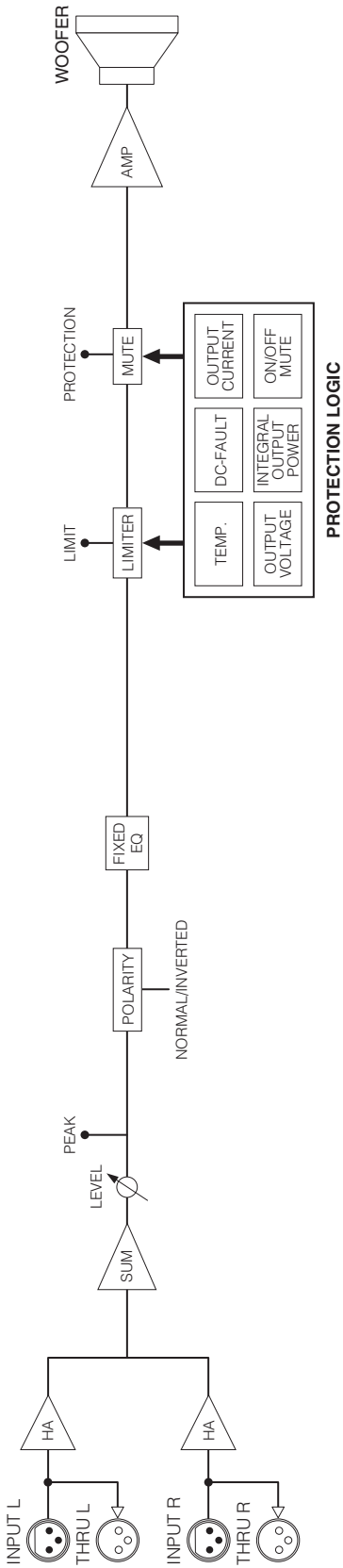


Block Diagram

DSR112/DSR115/DSR215



DSR118W





雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司
上海市静安区新闸路1818号云和大厦2楼
客户服务热线：4000517700
公司网址：<http://www.yamaha.com.cn>

制造商：雅马哈株式会社
制造商地址：日本静冈县滨松市中区中泽町10-1
进口商：雅马哈乐器音响（中国）投资有限公司
进口商地址：上海市静安区新闸路1818号云和大厦2楼
原产地：印度尼西亚

Yamaha Pro Audio global website
<http://www.yamahaproaudio.com/>
Yamaha Manual Library
<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

Manual Development Department
© 2010 Yamaha Corporation

Published 01/2015 改版 MWZC-B0
Printed in Indonesia

ZM27910